

セミしぐれの中で多数回連続して鳴いたクマゼミ (カメムシ目 = 半翅目, セミ科)

Continuous many times droning of *Cryptotympana facialis* (Hemiptera, Cicadidae) in chorus of cicadas droning

久保田 信

南日本に広分布するクマゼミ *Cryptotympana facialis* (カメムシ目 = 半翅目, セミ科) が, 和歌山県田辺市で 15 - 16 回連続して鳴いたのを記録した (久保田, 2010, 2011)。今回ほぼ同地点でさらに多数回連続して鳴いたので報告する。

遭遇地点は前回と同じ和歌山県西牟婁郡田辺市の新庄公園で, 公園内の美術館の職員入口のそばの遊歩道で, 2011 年 8 月 9 日の午前 8 時頃から 1 個体が, 途中の一時休息を入れて少なくとも 40 回連続して鳴いた。つまり, 樹高約 8m で最大の枝ぶりの幅が約 3m のハナノキのほぼ頂上で, とまった位置を変えずに鳴いていた。その場所で続いてさらに 16 回鳴いた後, 数十 cm 飛んでほぼ同じ位置にもどり (飛び去る角度だったが, すぐ U ターン), とまってからすぐ鳴き始め, 19 回連続して鳴いた。それから再び飛んで (今度は少し長く飛び), 同じ樹木の元いた箇所からそれでも 2m しか離れていない枝にすぐにとまると同時に 2 回鳴いた。この観察中, ハナノキのすぐ横の遊歩道を 3 人が散歩したが, ハナノキの頂上付近にそのクマゼミはいたせいか, 鳴き止めはしなかった。そのハナノキには少数のクマゼミもいないようにみえたが, それでも別の 1 個体のクマゼミがどこかに潜んでおり, それらは観察中は一度も鳴かないまま飛び去った。

上記のように, その雄のクマゼミは 3 回のわずかずつの一時休息をしたものの少なくとも 77 回ほぼ連続して鳴いたが (40+16+19+2 回), その後, そのハナノキから 10m ほど離れたムクノキ (高さ 8m ほどで最大の枝ぶり幅が約 6m) の直径数 cm ほどの枝に移動して (方角は南), 樹の上方へとまって再びすぐに鳴き始めた。そこで 5 回連続して鳴いた後, 終に何十 m も向こうの (方角は南) 樹木の茂った小高い場所に向かって飛び去り, 見えなくなった。

この美術館付近ではこの時間帯には多数のクマゼミが大合唱をしているので, 多くの競合者が近くにいてもこのような多数回の鳴きをすることがわかった。すなわち, 少なくとも連続 82 回も鳴いた (途中 3 回の飛翔時と 1 回のとまっている時に鳴きは瞬間的に断絶)。このような連続多数回鳴きをしたのは, 同じ樹木に競合者が少ないためかもしれないが, 何とも同じ場所で調査したのだが, 数個体でも個々の鳴く回数を見極めることは難しく, 大合唱の中となるとそれはなおさら困難であるので, さらなる観察・工夫が必要である。

謝辞

樹木の同定をして下さった梅本信也博士 (京都大学フィールド科学教育研究センター) に深謝いたします。

引用文献

久保田 信. 2010. 和歌山県田辺市で 16 回連続して鳴いたクマゼミ (カメムシ目 = 半翅目, セミ科). KINOKUNI, (18): 12-13.

久保田 信. 2011. 和歌山県田辺市で蝉しぐれの中で 15 回連続して鳴いたクマゼミ (カメムシ目 = 半翅目, セミ科). KINOKUNI, (80): 31.

(くぼた しん 〒649-2211 西牟婁郡白浜町臨海 459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所)